

輝け！ みらいアスリート

-第5走者- 鈴木 幸恵さん (バドミントン)

このコーナーでは、来年の茨城国体開催応援企画として、市内出身でさまざまなスポーツの分野で活躍する人にスポットをあて、紹介していきます。

すずき ゆきえ
鈴木 幸恵さん

(長渡呂新田／常総学院高等学校2年)

8歳から地元のクラブチームでバドミントンを始める。現在、常総学院高等学校バドミントン部の主将を務め、チームを引っ張る。2018年全国選抜大会茨城県予選で団体優勝、ダブルス準優勝、シングルスで3位に輝く。2018年全国私学大会で団体3位。2017年・2018年JOCジュニアオリンピックカップ出場。平成30年度の茨城国体強化指定選手になっている。17歳。

「常に感謝の気持ち忘れない」



輝け！みらいアスリートの第5走者を務めるのは、バドミントンの鈴木幸恵さんです。

鈴木さんは昨年、福井県で開催された「福井しあわせ元気国体2018」に、茨城県代表として出場しました。

鈴木さんは8歳の時、地元のバドミントンクラブを見学したことがきっかけでバドミントンを始めました。「試合中、駆け引きをしながら思い通りにラリーができて、得点できたときがうれしいですね」と競技の魅力を語ります。
甘えをなくし、自立すること。すべては強くなるために

現在、親元を離れ、監督の家に下宿しているという鈴木さん。理由は「強くなりたい」から。バドミントンはメンタルがそのまま出るスポーツだとい、「メンタルの強化がとても大切」と話します。毎日練習が終わった後は下宿先に帰り、洗濯などの身の回りのことはもちろん、ラケットのガット張りも自分で行います。午後11時までにはやることを済ませ、就寝というのが日課で「試合では気持ちの強さが勝敗のカギを握る。そのために自立した日常生活を送り、甘えをなくすことで試合中も強い気持ちでプレーできる」とバドミントンに打ち込む日々を過ごしています。

常に感謝の気持ちを胸に

「バドミントンは一人ではできない。必ず相手がいて、審判がいて、監督やコーチがいて成り立っている。常に感謝の気持ちを持ってコートに立とう」。競技生活を送る中で、こう考えるようになり、バドミントン以外のことも、さまざまなことに対して感謝の気持ちを持つようになった、と話します。

茨城国体で「恩返し」を

昨年出場した福井国体では、1回戦敗退という悔しい結果に終わり、力不足を痛感したという鈴木さん。「自分に足りないものはたくさんありました。メンタルとフィジカルの両方を鍛えて、悔しさを茨城国体にぶつけた」と雪辱を誓います。「これまでたくさんの人に支えられて、いろんな経験をさせてもらいました。今度は地元国体優勝という形で恩返ししたいです」と笑顔を見せてくれました。

